



今シーズン最多の約50千匹の落ちアユが掛かった延岡水郷帖やな二10日前、延岡市大貫町

# アユやな漁本格化 延岡

延岡市で300年以上の歴史を誇るアユやな漁が本格化している。同市大貫町の大瀬大橋近くに架けられた「延岡水郷帖やな」では10日、今シーズン最も多い約50千匹が水揚

げされた。アユやな漁は、産卵で川を下るアユの習性を利用する漁法。丸太を組み合わせた「つま」に沿い、竹で編んだ「立置(す)」で川をせき

止め、中流部の「落ち置」と呼ばれるすのこへと誘い込む。

同やなでは10月25日からアユが落ち始め、3日までの1週間で約20千匹が掛かったが、その後ほとんど漁獲のない状態が続いていた。管理するやな師の高橋生夫さん(65)によると、10日は前日の雨による増水や水温低下などで一気に増えたとみられる。

高橋さんは「これから本格的な落ちアユシーズン。現時点で昨年より型が良く、漁獲量も伸びている」と話している。同やなの設置は12月6日まで。

(佐藤友彦)

2011.11.11 宮日

# 風物詩のアユやな完成 延岡に2カ所

300年以上の歴史を誇る、延岡市の秋の風物詩「アユやな」が今年も五ヶ瀬川水系の2カ所に完成した。県内外の来場者は、水郷を象徴するやなの趣ある光景を楽しんでいる。やなの設置は2カ所とも12月6日まで。

アユやな漁は、産卵で川を下るアユの習性を利用する漁法。丸太を組み合わせた「うま」に沿い、竹で編んだ「立て簀(す)」で川をせき止め、中央部の「落(お)て簀」と呼ばれるすのこへと誘い込む。

同市大貫町の大瀬川には、川面に緩やかなカーブを描く「延岡水郷鮎やな」が設置された。

長さは約1300メートルと二級河川に架かるやなでは日本最大規模。漁獲のピークはまだだ

が、昨年比べてアユの掛かりがいいという。午後10時までに夜間ライトアップされている。

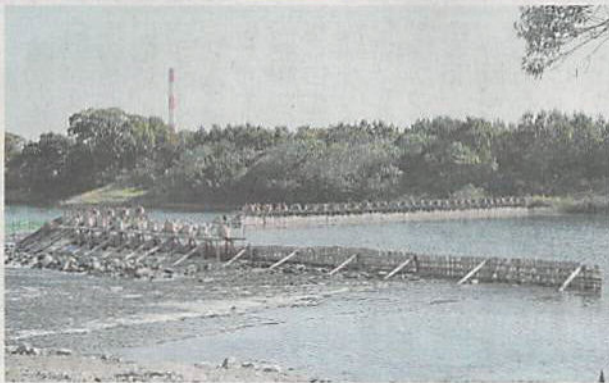
同市北方町川水流の五ヶ瀬

川では、約60メートルの「川水流やな」がお目見え。漁獲量減少で一時は設置を取りやめていたが、昨年から復活した。いずれのやなも棧橋が設置

2カ所

されており、落て簀付近まで近寄ることができる。延岡水郷鮎やなを初めて訪れたという、大分県別府市の長瀬重美さん(70)は「大きなアユを頂き満足。やなが雄大で美しく感動した」と話していた。

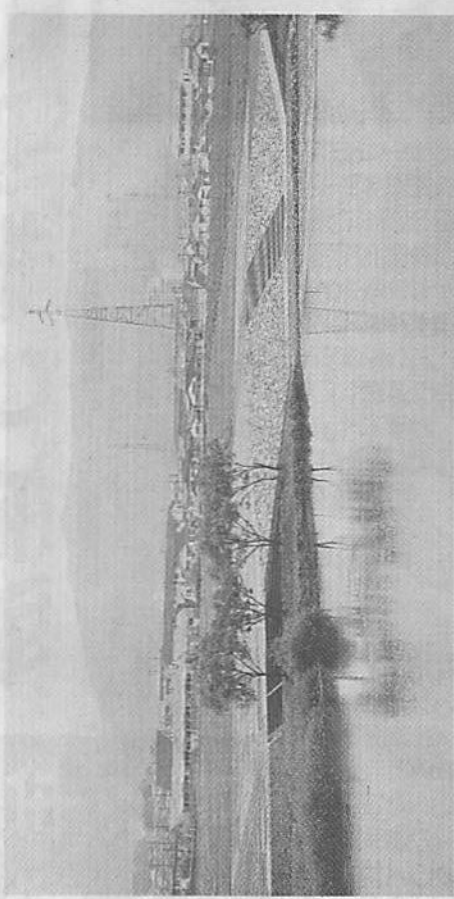
(佐藤友彦)



川水流やなの落て簀付近(上)と、二級河川に架かるやなでは約1300メートルと国内最大規模の延岡水郷鮎やな



# あゆやかな場前に広場 市民交遊で整備



完成した「大貫かわまち交流広場」の全景。堤防の左端にある平屋の建物が「かわまち交流館」

延岡市大貫町の大瀬川左岸河川敷に大貫かわまち交流広場が完成した。国土交通省延岡河川国庫事務所が大瀬川の河道掘削工事に合わせて1年前から整備を進めていたもので、あゆま場の風情を生かした新たな市民の憩いの場として活用される。

同交流広場の面積は、あゆ

まな場前の2・7畝。緩やかな階段や手すり付きスロープを敷設路に設置し、カーブ着場にも安全に行き来できる。芝生広場を設けたほか駐車場が舗装され、雨天時でも乗り入れやすくなった。総事

用される。今年の利用期間は8月末まで営利目的も可。問い合わせ、申し込みは延岡

業費は約2億円。  
五ヶ瀬川流域の資源を生かしたまちづくりを進めようと、平一五ヶ瀬かわまち創ろう会の「自然の恵み体験拠点部会」（廣瀬武男会長）が作成した計画を「大貫水辺プロジェクト」として具現化。同プロジェクトが、市町村の河川や水辺の整備・活用計画を後押しする国交省の支援制度に2年前登録され、同交流広場の整備が図られた。

完成式典は1日に同交流広場であり、国交省や同市、民間団体などの関係者と延岡小4年生ら計約150人が出席し、テープカットを行って同交流広場の完成を祝った。楠本敦・同事務所長や首藤正治市長があいさつに立ち、廣瀬会長も「県内外の皆さんに広く使ってほしい」と述べ、最後に首藤市長と見重らが稚アゴ約300きを放流した。

また、同交流広場近くのおゆまな食事棟も「かわまち交流館」として同日オープン。通年利用できる施設として、環境教育や観光振興などへ活

観光協会 ☎0982 (29) 2155。

(延岡支社・森藤子)